
魔法少女の憂鬱

ハイル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女の憂鬱

【ZPDF】

Z7607D

【作者名】

ハイル

【あらすじ】

魔法少女は今日も敵と戦います。その胸に秘めたる思いをもつて。
……ああ、平穀よ、いざこへ。

なんというか、そう……あれだ。

巻き込まれた感が大いに感じられる。

私は一体何をしているのだろうか？相棒に聞いてみる

「なあマリモ。 そうは思わないか？」

「何？何？ 質問はいいから早く戦つてよ！！」

うむ、つまらない回答だな。これで元エリートか、程度が知れるな。全く、この相棒は心に余裕が無いな。それでは人生がつまらんだろう。相棒に聞いてみる。

「なあマリモ。 そうは思わないか？」

「だから何なの？！さつきから！－敵の目の前で！－」

うむ、敵。そう、敵だ。確か私は会社員で今年で22歳になる。はつきり言つていい年こいた大人なのだが……。と、考えてもう一度現状を振り返る。

格好 やたらピンク色のフリル付きドレス オーケー理解した
持ち物 先端に星の付いた可愛らしい杖 オーケー理解した
自分 何か長めの金髪の美少女になつてるらしい オーケー、
受け入れよう

目前 やたらでかい鉄の巨人（ロボットか？） うむ、理解しがたい

で、現状としてそのやたらでかい鉄の巨人に襲われてるわけだ。：

： 何コレ？

「なあマリモ。 そうは思わないか？」

これで何度もかは解らないが緑の球体っぽい生物の相棒に質問を投げかける。

「ちょっと！－人の話聞いてくれてる？！本当に危ないんだけど！－

そう、危ないのだ。さつきからやたらでかい鉄の巨人、名前が長いのでテツオと命名しよう。そり、テツオがやたらに手を振り回して私に攻撃を仕掛けてきている。動き自体は非常に遅いので回避し続ける事は簡単だ。だが逃げ回るマリモが必死で面白かったので放つて置いた。そもそも飽きたのでそもそも倒すことじよつ。

「よし、じゃあテツオをぶつ飛ばしますか」

「ちょ！ 誰！ ？ テツオって誰なの？ ？」

相棒のツツヨミは絶好調だ。思わず笑つてサムズアップを見せる。「意味分からぬし！ ！ なんでそんないい笑顔！ ？」

ということで、テツオを倒すために魔法を使うことにする。じゃあ、今回は巨体だから重力反転でいいかな。そう思いテツオが宇宙へ自由落下するイメージをし、力を解放させる。

「飛んでいきなー

気楽な声とともに魔法が発動し、テツオが光に包まれる。そして浮き上がるテツオ。

「テツオ、達者でなー」

何となく敬礼して見送る私。この魔法とやらはイメージを実体化させる感じの使い勝手のいいものなので非常に助かる。さて、町並みを戻して家に帰るとしよう。

「なあマリモ。 そつは思わぬいか？」

「……もう、いいです」

落ち込むな。明日もいい日になるぞ。と声をかけようとしたら

「なんで早めにああいった感じで倒してくれないので？ ？」

相棒が質問してきた。なので簡潔に答えてやった

「元の姿に戻れない腹いせですよ」

朝焼けをバックにそう締めくくつてやつた。

そして私、山本真助（男）は美少女姿で出社する。「魔法で誤魔化す日々にも疲れが溜まるんですよ」

(後書き)

30分ほどで書き上げた勢いだけのもの
細かくつつ込まれてもマジで困る

色々考えたがこの主人公、動かしにくいわ
話続けるなら人物増やさんと辛い

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7607d/>

魔法少女の憂鬱

2010年11月17日10時28分発行